

1. 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

●教員の養成の目標

令和2年度より教育体制を1学部9学科から3学部9学科に改組した。そのうち、2学部6学科及び大学院において教職課程を継続設置し、学際的、総合的に幅広い職業人養成を行うことにより、後期中等教育を修了した直後の女子学生に専門の知識、技術を修得させるのみならず、自ら学ぶ意欲と力を育て、21世紀を生きる女性としての生きる力を育てる。教職に関する資格は単に学校に就職するための資格を越えて人間として生きる力、あるいはよき社会人となるための能力を育成するものであるという観点から、資格取得の指導を行っている。

●当該目標を達成するための計画（教職課程を有する学科のみ）

人間生活学部 健康栄養学科	中学校教諭一種免許状（保健体育）・高等学校教諭一種免許状（保健体育）・ 栄養教諭二種免許状
<p>栄養学を基礎として運動と食文化の分野の専門知識と技能を習得し、健康生活を推進できる人材を育成するため、健康運動コースと食文化コースの2コースを設置する。健康運動コースでは、運動プログラムをつくり（計画）、QOLの向上について考え（理解）、これらを通して健康生活を伝える（実践、教育）ことに取り組み、この分野でのスペシャリストを養成する。特にこのコースにおいては「教育」への適性が高く、意欲・関心のある学生を中心に生涯スポーツに結び付ける運動場面での指導力の高さに加え、健康に関する専門性の高い知識のもと、主体的・対話的で深い学びを指導できる中学校・高等学校の保健体育科の教員を養成する。食文化コースでは、食事をつくり（創造）、食文化を考え（理解）、これらを通して食の豊かさを伝える（伝承、教育）ことに取り組み、この分野でのスペシャリストを養成する。特に、このコースにおいては「教育」への適性が高く、意欲・関心のある学生を中心に食育の分野で中核となって学校をリードし、専門性の高い知識のもと主体的・対話的で深い学びを指導できる栄養教諭を養成する。</p>	

人間生活学部 食物栄養学科	栄養教諭一種免許状
<p>食と栄養に関する知見と栄養指導などの実践的の力量を持ち、高い専門知識に裏付けられる栄養教諭の養成を目指す。資質豊かで人間関係力の高い「食と栄養と健康」の分野における学識と技術にすぐれた専門家（管理栄養士）を育成するための教育研究を押し進める。高度な専門知識・技能および管理能力を有した優れた管理栄養士となるために必要な能力を修得させることは当然のことであるが、それに留まらず、今日そのニーズが高まりつつある消費者サイドにたった食の専門家、子どもの食育計画・推進を行う専門家、食生活に運動習慣を加えて提案できる専門家、労働者の安全・安心のための衛生管理・健康管理の専門家、医薬品と食品の境界領域を熟知した専門家を育成するための教育研究を行うことも学科の特色の一つである。専門教育の主体は、「食と栄養と健康」の専門家としての基礎力の涵養、また栄養士・管理栄養士（国家試験受験資格）の資格取得を目指す。</p>	

教育人文学部 幼児教育学科	幼稚園教諭一種免許状
<p>人間理解力と関係発展力に富んだ創造的保育実践力のある教育者、地域社会の中で様々な役割をもって人間の成長発達を支え、未来を切り拓く教育者の育成を教育の中心とした幼稚園教諭の養成を行う。学科の教育目標は、①実践・研究対象となる子ども理解、②学ぶ存在としての自己理解、③力動的相互関係性への理解、④人間生活の基盤となる環境（家庭・地域・社会・文化・自然）理解、の4つである。カリキュラムは、</p>	

①感性レベル（感じて気づく）、②認識レベル（考えて理解する）、③行為レベル（かかわり合い表現する）の3つのレベルでの学びの喚起が可能な構成とし、感性と認識レベルにおける統合的理解にとどまらず、それをもとに自らが行動することを通して学ぶという、異なる学びの相互作用と統合を目指すものである。このような教育内容や教育方法が、創造的保育実践であると考えからである。具体的には講義、さまざまな形態による演習、実習と省察によるカリキュラムを構築し、いずれの授業においても表現とコミュニケーションを重視することにより、表現者・行為者としての表現と行為の洗練と、関係発展力の形成、省察の深化を図る。その他、①新座市との連携、②幼稚園・認定こども園・保育所や障害児施設・子育て支援センターなど多様な保育現場との連携、③さまざまな立場の人との交流を重視し、広く地域社会や保育現場に学習の場を広げ、人的交流を通して、幼稚園教諭を目指す学生としての学びを展開する。

教育人文学部 児童教育学科	小学校教諭一種免許状・幼稚園教諭一種免許状・ 中学校教諭一種免許状（英語）・高等学校教諭一種免許状（英語）・ 特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者、肢体不自由者、病弱者）
<p>豊かな人間性と教職への強い使命感を持ち、学び続ける小学校教員等を養成する。近年の教員を取り巻く状況（社会の急激な変化、大量退職と採用による経験年数の不均衡）を踏まえ、教員として不易とされる資質能力に加えて、①自律的に学ぶ姿勢や、時代の変化やキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていこうとする ②「チーム学校」の実現に向けて、多様な人と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組むことができる ③「幼児教育・特別支援教育・英語教育」等への学びを究め、幼小及び小中の円滑な接続等に関する知識と技能を有する ④学校教育の今日的な諸課題を解決することができる、といった能力や態度を身につけた人材の養成を行う。</p>	

教育人文学部 心理学科	養護教諭一種免許状・ 中学校教諭一種免許状（保健）・高等学校教諭一種免許状（保健）
<p>教育臨床心理を基盤とした「こころのケア」ができる養護教諭、及び保健教諭の養成を目指す。学科の学びの特色である「人間の生涯にわたる発達過程をこころと行動の多様な面から学ぶ」を基本に、いじめ・不登校など現代的課題を抱え、危機的な子どもたちのこころに気づき・支え・援助し、養護教諭として予防しうる技能を身につけさせる。同時に、こころの専門性と身体的な健康の管理とケアを支援しうる保健衛生・健康科学領域の理論と実践力を備えることで、多様なニーズに応える実践的能力を持った養護教諭、及び保健教諭の育成を目指す。</p>	

教育人文学部 文芸文化学科	中学校教諭一種免許状（国語）・高等学校教諭一種免許状（国語）
<p>学術的専門性に基づいた高度な日本語運用能力の習得を学修の基盤に据えることを特色とする。さらに、文化・芸術に対する幅広い知識の修得と深い洞察を通して人間を理解し、他者と協働して文化を創造し発信する能力を育成することを学びの中核とする。特に教員養成においては、日本語と日本文学に関する専門的な知見の習得を重視する。加えて、適切かつ高度な日本語の運用能力と論理的思考力を活用し、自らの思考や感情を的確に他者に伝達する能力を備えた教員を育成する。</p>	

【大学院】研究科食物栄養学専攻**栄養教諭専修免許状**

「食と栄養と健康」の専門家、とくに管理栄養士（栄養教諭）に求められる社会的ニーズの多様化・高度化に対応して、学部教育で培った学識と技術をさらに特化・強化し、科学的視点、根拠に基づく実践活動、理論と実践の研究能力を高めつつ、高度の専門性を要する職業等に必要な能力を養うことを目的としている。共通教育科目の食・健康と栄養の科学（必修）、専門教育科目の3分野、すなわち、栄養科学（栄養科学概論（必修）、代謝栄養学特論、人間栄養学特論、国際栄養学特論、公衆栄養学特論、臨床栄養学特論）、食科学（食科学概論、食品学特論、食品機能科学特論、調理科学特論、食生活学特論、食教育学特論）、健康科学（健康科学概論、生活習慣病学特論、健康医学特論、運動生理学特論、健康運動学特論、衛生管理学特論）を教育研究の対象とし、栄養教諭専修免許状取得に必要な栄養に関する専門性を深く修得させ、今日教員に求められている実践的研究を推進する能力の涵養を行うことを目指している。